

「仕事」にも不思議な効力がある！

5 1. 自分に「新しいドラマ」をつくる言葉

愛を得られない人は人格に問題があります。 得る前に自分が
与えることを考えなさい。.....それが萱を得る一番の早道です。.....

何事にも正しいやり方があります。やり方が正しくないときには問題が生じます。実際、人はいろいろな問題を抱え込みますが、そこにはおのずと個人差があります。

ある人は言います。私の家系は体が弱い。病気ばかりするのはそのせいだと。こういう考えはほとんど間違っているとマーフィー博士は言います。人が抱える問題の九〇パーセントは、その人間がつくり出しているからです。

職場をクビになりそうな女性がいました。彼女はその理由を、同じ職場のほかの人間がこぞって自分を嫌い、追放しようとしているためだと思っていました。その話を聞いたマーフィー博士はたずねました。

「そんな職場で働くのは楽しくないでしょう。この際、自分から辞職してほかの職場を探したらどうですか？」

「私は運が悪くて、今までに六回も職場を変えています。これ以上変えたくありません」

その女性は非常に有能で、教育も十分に受けていましたが、彼女の抱えている問題の原因の大半は彼女の人格にあったのです。子供の頃に妹を亡くした彼女は、「お前と代わればよかったのに」と父親がつぶやいた二言で傷つき、以後自分はいつも厄介者であるという固定観念に縛られていたのです。

好むと好まざるとにかかわらず、強固な自分への思い込みは、無意識にそのような方向へと自分を誘導します。彼女はどこでも自分が厄介者と思われたとき、心理的に安定をするという悪い心理を持ってしまっていたのでした。

今度もそうした心の動きが、新しいドラマをつくりつつあったのですが、その一方で彼女は年齢からいっても、また職場を変えることを望まなかったのです。

以上のことを見抜いた博士は、周囲の人々に対して「愛を放射すること」を彼女に勧めました。

実際、彼女は心の底では愛を求めながら、他人への愛を放射することが苦手だったのです。博士が創作してくれた祈りの言葉によって、長年閉じ込められていた彼女の愛の心は力強く放射されました。

彼女は職場をクビになるどころか、望外の昇進を果たし、素晴らしいパートナーまで得ました。

マーフィー「お金」と「幸せ」の法則 ジョセフ・マーフィー・インスティテュート編